

# OKFニュース

No. 68  
2025年11月

公益財団法人 大阪腎臓バンク

## 巻頭言



大阪腎臓バンク常任理事  
東 治人

秋の訪れとともに、大阪腎臓バンクの機関誌が本号を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

今回このような機会を頂き「さて何を書こうか？」まず思い浮かんだのは、役員会に出席するたびに感銘を受けること——それは、資金運用の見事さです。この運用で増やした資金を原資として、多くの若い研究者に助成金を交付し、彼らの研究意欲を高めていることを思うと、その功績は極めて大きいと思います。この運用を担っておられる役員及び事務局の皆様には、心から敬意を表するとともに、私が定年になった暁には、ぜひ弟子入りさせていただこうかと思っておりますので、その節はどうぞよろしくお願いいたします。

さて、日頃から深く感銘を受けていることを申し上げたところで、本題に入りましょう。今回は、大阪腎臓バンクの歩みと、腎臓移植の発展に果たしてこられた大きな役割を、あらためて振り返ってみたいと思います。大阪腎臓バンクは、わが国の腎臓移植医療の黎明期から、提供と移植をつなぐ極めて重要な役割を担ってこられました。設立以来約半世紀にわたり、医療者、行政、患者会、ボランティアなど多くの方々が力を合わせ、命をつなぐ医療の形を築いてこられたことは、まさに大阪腎臓バンクの誇るべき歴史です。現在、日本で行われている腎臓移植の約8割は、生体腎移植です。親子や夫婦、兄弟姉妹などの間で腎臓を提供し合う温かい支え合いの形が広く行われています。一方で、脳死あるいは心停止後の献腎移植は、依然として数が限られています。透析医療が高い水準で普及している日本では、患者の生命維持は確実に行われていますが、「より自由に、自分らしく生きたい」と願う患者にとって、腎臓移植はかけがえのない希望でもあります。待機登録をしても移植

まで10年以上を要する現実を前に、私たちは改めて臓器提供への理解を社会全体で深めていく必要を感じます。臓器提供というテーマには、倫理的な側面や心理的な負担、家族の葛藤など、さまざまな要素が絡み合います。だからこそ、単なる啓発ではなく、「命をつなぐ文化」を育てることが大切だと思います。家族の間で、もしもの時の意思を話し合うこと。教育の現場で、生命の尊さや提供の意義を自然に学ぶこと。そうした積み重ねが、臓器提供を特別な行為ではなく、“誰かの未来を支える一つの選択肢”として根づかせていくのだと思います。病院間の連携体制を整え、ドナーやご家族への心理的支援にも心を配り、誠実に活動が続けてこられたことは本当に素晴らしいことです。近年ではICTの進歩により、提供・移植に関する情報管理がより迅速かつ正確に行えるようになり、移植医療の透明性も向上しています。こうした新しい仕組みを活かしつつ、人と人のつながりを大切にする大阪腎臓バンクの姿勢は、これからの時代にもますます重要になっていくことでしょう。腎臓移植は、医療技術で完結するものではなく、人の思いがつなぐ医療です。ドナーの勇気とご家族の決断、それを受け止める医療者、そして新たな人生を歩む患者さん。そのすべてが一つの「いのちのリレー」を形づくっています。私たち医療従事者は、その橋渡し役として、科学的根拠に基づいた医療を実践しながらも、そこに込められた思いを丁寧に受け止め、次世代へとつないでいかなければなりません。大阪腎臓バンクがこれからも、腎不全患者に希望を届け、地域に根ざした「いのちのネットワーク」として発展し続けることを心より願っております。そして、臓器提供がより多くの人に理解され、「いのちをつなぐ」ことが自然な社会文化として根づいていくことを祈念し、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

(大阪医科薬科大学 泌尿器科学教室教授)

## 令和6年度事業報告・決算の概要

令和6年度の事業活動については、概ね計画通り実施されました。

### 事業報告

#### 1. 腎不全実態調査助成事業（60万円）

大阪透析研究会、腎移植施設連絡会及び近畿献腎移植施設会議症例検討会に各20万円の助成を行いました。

#### 2. 若手研究者に対する研究助成（500万円）

令和6年度の研究助成事業も、大学・病院医師・コメディカルといった様々な所属や移植・透析・CKDといった様々な医療分野からの申請を一律に審査するのではなく、様々な分野の研究テーマに幅広くチャンスを与えるため、施設・資格、医療分野ごとに枠を設け、その各々の枠の中で審査を行うこととしました。その結果、21件の申請に対して基礎分野は7件、臨床分野は6件、コメディカル部門は4件、合計17件に対して助成を行いました。

- ① 南 聡（大阪大学大学院医学系研究科）  
1 細胞RNAseq解析を用いたAKI to CKDの病態解明と治療応用
- ② 美馬 晶（大阪医科薬科大学医学部）  
腎炎患者由来iPS細胞から作製した腎臓オルガノイドの解析
- ③ 河岡 孝征（大阪大学大学院医学系研究科）  
慢性腎臓病患者に対する植物性たんぱく食の有効性の評価～pilot study
- ④ 森岡 史行（大阪公立大学大学院医学研究科）  
高齢の常染色体顕性多発性嚢胞腎におけるトルパブタンの効果の検討
- ⑤ 音部 雄平（大阪公立大学大学院リハビリテーション学  
研究科）  
保存期慢性腎臓病患者における運動療法・身体活動の実施に関する実態調査
- ⑥ 松井 翔（大阪大学大学院医学系研究科）  
オートファジーとフェロトーシスに着目した糖尿病関連腎臓病の病態解明
- ⑦ 櫻井 紀宏（大阪公立大学医学部附属病院）  
バンコマイシン（VCM）とタゾバクタム／ピペラシリン（TAZ／  
PIPC）併用による薬剤性腎障害の機序解明に関する検討
- ⑧ 新沢 真紀（大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談  
センター）  
大阪大学の職員健診における、交代勤務と蛋白尿発症・腎機能低下の関係
- ⑨ 辻野 拓也（大阪医科薬科大学医学部）  
包括的遺伝子解析による透析腎臓病患者における病態解明
- ⑩ 奥嶋 拓樹（大阪大学大学院医学系研究科）  
細胞極性制御に基づく近位尿細管上皮細胞の恒常性維持機構の解明
- ⑪ 角田 洋一（大阪大学大学院医学系研究科）  
Dアミノ酸を用いた生体腎ドナーの新規腎機能評価法の開発
- ⑫ 川村 正隆（大阪急性期・総合医療センター）  
免疫グロブリンおよびリツキシマブを用いた術前ドナー特異的HLA抗体陽性腎移植における脱感作療法の最適化
- ⑬ 関戸 美真（大阪公立大学医学部附属病院）  
シャント音からバスキュラーアクセス機能不全を推測する人工知能（Artificial Intelligence：AI）の開発、検討
- ⑭ 山内 壮作（関西医科大学）  
小児の特発性ネフローゼ症候群における腸内細菌叢の乱れとステロイド抵抗性の関連
- ⑮ 東野 幸絵（関西医科大学附属病院）  
腎予後改善を目指す糖尿病合併腎移植患者の多職種チーム連携
- ⑯ 中谷 嘉寿（近畿大学医学部）  
Nucleobindin-2/Nesfatin-1の腎尿細管細胞・ミトコンドリアに及ぼす影響及びそのメカニズムの解明
- ⑰ 山本 致之（大阪大学大学院医学系研究科）  
腎癌と正常腎におけるRNA修飾群を介した発癌メカニズムの解明と新規治療標的探索

#### 3. 優秀論文に対する褒賞（40万円）

令和6年3月の第100回及び9月の第101回大阪透析研究会で発表され、優秀論文選考委員会で選ばれたもの年間9件を表彰し、褒賞金各5万円を贈呈しました。

##### (1) 第100回大阪透析研究会優秀論文

- ① 透析中にMR技術を活用した場合の認知機能に与える影響について（医療法人北辰会 天の川病院）
- ② 当院におけるNM併用下でのレオカーナ施行報告（済生会中津病院 血液浄化療法センター）
- ③ 外来透析施設の適切な空調管理に取り組んで（医療法人健栄会 三康病院附属診療所 三康病院）
- ④ 後期高齢腹膜透析患者への手技指導とセルフケアのとりくみ

（貴生病院）

##### (2) 第101回大阪透析研究会優秀論文

- ① A病院の減塩指導方法の効果（良秀会 藤井病院 腎・透析センター）
- ② BVモニタ酸素飽和度を用いた過剰体液量の評価（さかいクリニック 透析センター 内科）
- ③ ADLに応じた介護保険申請を～地域で暮らし続けたい患者を支えるために～（医療法人北辰会 天の川病院）
- ④ セフメタゾールNa長期投与中に血液凝固障害を伴う出血性合併症を認めた血液透析患者の1例（医療法人仁真会 白鷺病院）
- ⑤ 角化型疥癬を発症した入院透析患者により職員の集団発生が疑われた1症例（医療法人健栄会 三康病院）

#### 4. 教育研修助成事業（5万円）

大阪大学医学部附属病院に対し、第60回日本移植学会総会への参加費用50,000円を助成しました。

#### 5. 学会等共催事業（744万円）

腎・尿路疾患の予防と治療に関する学術研究の推進に寄与するため、学会等共催審査委員会で承認された学会及び研究会の共催事業を実施しました。

##### (1) 学 会

- ① 第39回腎移植・血管外科研究会  
主宰：内田 潤次（大阪公立大学大学院）  
開催：令和6年6月13・14日  
於：大阪国際会議場
- ② 第101回大阪透析研究会  
主宰：中村 敬弘（医療法人宝生会 PL病院）  
開催：令和6年9月15日  
於：大阪国際会議場
- ③ 第43回日本マグネシウム学会学術集会  
主宰：繪本 正憲（大阪公立大学大学院）  
開催：令和6年11月16日  
於：あべのハルカス
- ④ 第4回日本腎・血液浄化AI学会学術集会・総会  
主宰：長沼 俊秀（大阪公立大学大学院）  
開催：令和6年11月24日  
於：ホテルアウリーナ大阪
- ⑤ 第8回I-HDF研究会  
主宰：武本 佳昭（大阪公立大学大学院）  
開催：令和6年12月8日  
於：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
- ⑥ 第24回日本間質性膀胱炎研究会  
主宰：鳥本 一匡（奈良県総合医療センター）  
開催：令和7年1月19日  
於：東大寺総合文化センター
- ⑦ 第102回大阪透析研究会  
主宰：角田 洋一（大阪大学大学院）  
開催：令和7年3月2日  
於：大阪国際会議場

##### (2) 研究会

- ① 大阪腹膜透析研究会  
会長 林 晃正（大阪急性期・総合医療センター）
- ② 腎疾患フロンティア研究会  
代表世話人 角田 洋一（大阪大学大学院）
- ③ 慢性腎臓病（CKD）アウトカム研究会  
代表幹事 倉賀野 隆裕（兵庫医科大学）
- ④ 大阪骨粗鬆症検診を考える会  
会長 稲葉 雅章（大野記念病院）

#### 6. 普及啓発事業（268万円）

- (1) キャンペーン活動及び啓発資料作成・配布  
10月20日開催の「第51回堺まつり」にて街頭キャンペーンを実施、また、10月26日開催の「第50回すみよし区民まつり」にブースを出展し街頭キャンペーンを実施しました。
- (2) 患者団体活動助成  
患者団体の活動に対し助成を行った。
  1. NPO法人大阪腎臓病患者協議会（大腎協）
  2. NPO法人日本移植者協議会（日移植）
  3. 大阪移植の会
  4. 大阪腎友会
- (3) 勉強会の開催及び機関誌発行等  
大阪府と共催で「臓器提供に関する研修会」及び「大阪府院内移植コーディネーター研修会」を開催しました。
  1. 9月27日 大阪府庁本館
  2. 2月28日 神戸大学大阪クラブホール
  3. 3月21日 大阪府庁本館また、OKFニュースNO.65及び66号を発行し賛助会員等に配布するとともにホームページを更新しました。

7. 組織適合検査事業（539 万円）

- (1) 検査体制の整備に努めるとともに、検査事業の向上・改善を図るため、日本臓器移植ネットワーク、検査機関、移植施設と意見・情報交換を行いました。
- (2) 献腎移植希望登録を円滑に行うため、組織適合検査（HLA 検査、クロスマッチ検査）を当財団の費用負担（一部、府補助金及び患者負担あり）により、大阪急性期・総合医療センターで実施しました。
- HLA 検査 98 件（うち、患者負担徴収分 92 件）
  - 抗体クロスマッチ検査 0 件

8. 大阪府臓器移植コーディネーター事業（743 万円）

- (1) 日常活動として、三次救命救急センター、公的病院、民間病院の 19 医療施設を延べ 82 回訪問し、移植推進のための情報交換や普及啓発資料等配布しました。臓器提供可能医療機関に対し移植医療の普及啓発を図るため、院内移植コーディネーター設置支援や臓器の提供に関する研修会の開催など提供体制の強化に努めました。また、大阪府、日本臓器移植ネットワークとの連絡調整業務を行いました。
- (3) ドナー発生時は日本臓器移植ネットワークの指示により腎臓提供を承諾する通報から腎移植に至るまで、腎提供施設・移植施設との連絡調整、組織型の適合した移植希望登録者への連絡、検体・腎臓の搬送、ドナー遺族への対応を行いました。
- (4) 令和 6 年度における、大阪府内でのドナー情報は 19 件あり、提供に結びついたのは 9 件でした。

<令和 6 年度 献腎移植実績>  
提供：府内 9 件 18 腎、府外 7 件 7 腎  
移植：府内 7 腎、府外 8 腎 計 25 腎

年 月 日	提供病院	移植病院	備 考
6 年 5 月 6 日	近畿大学病院	広島大学病院	脳死
		大阪公立大学医学部附属病院	
5 月 11 日	大阪急性期・総合医療センター	藤田医科大学病院	脳死
		近畿大学病院	
5 月 19 日	済生会滋賀県病院	大阪市立総合医療センター	脳死
6 月 16 日	京都第二赤十字病院	近畿大学病院	脳死
6 月 22 日	大分県立病院	大阪大学医学部附属病院	脳死
7 月 1 日	(近畿地方)	京都大学医学部附属病院	脳死
		大阪急性期・総合医療センター	
7 月 15 日	(近畿地方)	大阪大学医学部附属病院	脳死
8 月 29 日	(大阪府内)	東京大学医学部附属病院	脳死
		大阪大学医学部附属病院	
9 月 4 日	大阪急性期・総合医療センター	奈良県立医科大学附属病院	脳死
		大阪急性期・総合医療センター	
9 月 14 日	(四国地方)	大阪大学医学部附属病院	脳死
9 月 19 日	関西医科大学総合医療センター	京都大学医学部附属病院	脳死
		大阪急性期・総合医療センター	
10 月 6 日	公立豊岡病院組合立 豊岡病院	大阪大学医学部附属病院	脳死
10 月 26 日	(神奈川県内)	大阪大学医学部附属病院	脳死
12 月 5 日	大阪医科薬科大学病院	九州大学病院	脳死
		東邦大学医療センター大森病院	
12 月 5 日	大阪急性期・総合医療センター	近畿大学病院	脳死
		大阪公立大学医学部附属病院	
12 月 17 日	(大阪府)	(大阪府)	心停止
		(大阪府)	

9. 献腎移植推進事業（115 万円）

9 施設から 15 件の有効な情報提供があり、そのうち 6 施設の情報に基づき 8 件の献腎移植が行われました。

施設名	院内 Co 届出	情報提供	献腎移植
① 大阪大学医学部附属病院	有	5 件	1 件
② 大阪急性期・総合医療センター	〃	3 件	3 件
③ 関西医科大学総合医療センター	〃	1 件	1 件
④ 中河内救命救急センター	〃	1 件	1 件
⑤ 済生会千里病院	〃	1 件	0 件
⑥ 近畿大学病院	〃	1 件	1 件
⑦ 医誠会国際総合病院	〃	1 件	1 件
⑧ 大阪医療センター	〃	1 件	0 件
⑨ 大阪医科薬科大学病院	〃	1 件	0 件
計 9 施設		15 件	8 件

(決算の概要)

令和 6 年度の当期経常増減額は 214 万円余りの赤字となった。これは、黒字決算が続いたことから公益事業を拡大し、組織適合検査における患者助成金の増額（1 万円→2 万円）、献腎移植推進事業を新規事業として実施したためであり、財務状況の悪化によるものではありません。

貸借対照表

令和 7 年 3 月 31 日現在 (単位：円)

科 目	当 年 度	増 減
Ⅰ 資 産 の 部		
1. 流 動 資 産	15,940,564	▲ 1,379,915
2. 固 定 資 産	272,389,646	613,695
(1) 基本財産	(60,000,000)	(0)
(2) 特定資産	(47,518,327)	(2,115,535)
(3) その他の固定資産	(164,871,319)	(▲ 1,501,840)
資 産 合 計	288,330,210	▲ 766,220
Ⅱ 負 債 の 部		
1. 流 動 負 債	2,487,712	327,786
2. 固 定 負 債	4,875,000	1,021,000
負 債 合 計	7,362,712	1,348,786
Ⅲ 正 味 財 産 の 部		
1. 指定正味財産	67,758,133	2,238,500
2. 一般正味財産	213,209,365	▲ 4,353,506
正味財産合計	280,967,498	▲ 2,115,006
負債及び正味財産合計	288,330,210	▲ 766,220

正味財産増減計算書

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで (単位：円)

科 目	当 年 度	増 減
Ⅰ 一般正味財産の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本財産運用益	1,071,802	0
運用財産運用益	9,417,545	▲ 521,211
受取会費賛助会費	13,880,000	▲ 450,000
受取寄付金（学会等共催）	7,439,000	▲ 17,553,750
受取寄付金（一般）	254,056	254,056
受取学会等共催事務費	442,500	▲ 747,000
受取補助金	860,000	0
受取補助金（NW）	784,563	102,370
受取受託料	5,434,000	0
受取受益者負担金	3,230,000	▲ 685,000
受取利息	20,822	20,178
雑収益	0	▲ 100,000
経常収益合計	42,834,288	▲ 19,680,357
(2) 経常費用		
事業費		
腎不全実態調査助成金	600,000	400,000
研究助成費	5,000,000	0
褒賞費	400,000	0
教育研修助成費	50,000	27,280
学会共催費	7,439,000	▲ 17,553,750
学会等審査委員会謝金	147,300	125,026
普及費	2,674,641	108,563
組織適合検査費	5,390,000	550,000
移植コーディネーター費	7,424,188	71,450
献腎移植助成金(情報提供)	750,000	750,000
献腎移植助成金(献腎移植)	400,000	400,000
支払手数料	25,190	▲ 100,811
補助金還付金	235,000	▲ 163,000
管理費	14,446,195	1,180,253
経常費用合計	44,981,514	▲ 14,204,989
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 2,147,226	▲ 5,475,368
投資有価証券評価損益	▲ 2,206,280	▲ 21,680,688
当期経常増減額	▲ 4,353,506	▲ 27,156,056
2. 経常外増減の部		
経常外収益計	0	▲ 996,000
経常外費用計	0	0
当期経常外増減額	0	▲ 996,000
当期一般正味財産増減額	▲ 4,353,506	▲ 28,152,056
一般正味財産期首残高	217,562,871	23,798,550
一般正味財産期末残高	213,209,365	▲ 4,353,506
Ⅱ 指定正味財産の部		
受取学会等共催寄付金	10,120,000	▲ 8,680,000
一般正味財産への振替額	▲ 7,881,500	18,300,750
当期指定正味財産増減額	2,238,500	9,620,750
指定正味財産期首残高	65,519,633	▲ 7,382,250
指定正味財産期末残高	67,758,133	2,238,500
Ⅲ 正味財産期末残高		
	280,967,498	▲ 2,115,006

理事・監事の改選

令和 7 年 5 月 30 日に開催された評議員会で理事及び監事の改選案が承認された新たな理事 2 名と留任した理事 23 名及び留任監事 2 名が選任されました。



## 普及啓発活動の紹介

財団では、10月の臓器移植普及推進月間に合わせ献腎移植の促進を図るため普及啓発活動を行っています。また、患者団体による普及啓発活動を支援するため各団体に助成金を交付しています。

### ①堺まつり

10月19日に開催された「第52回堺まつり」の会場で普及啓発資材を配るなどして臓器移植の普及啓発に努めました。

### ②すみよし区民まつり

10月25日に開催された「第51回すみよし区民まつり」の会場にブーステントを設置し、大阪府・市や患者団体、支援団体と協力して普及啓発資材の配布を行いました。



## 第26回臓器移植推進国民大会の開催について

大阪府では、毎年10月の「臓器移植普及推進月間」の取組として、太陽の塔など府内施設のライトアップ（グリーンライトアッププロジェクト）、市民まつりでのブース出展などを実施しています。

今年度は、これらに加えて、厚生労働省等との共催により、10月26日（日曜日）に大阪市中央公会堂において「第26回臓器移植推進国民大会」を開催いたしましたので、当日の様子を報告いたします。

「臓器移植推進国民大会」は各都道府県の持ち回りで開催されており、大阪府での開催は2000年の第2回大会以来、2度目となります。

当日は、関係者も含め200名を超える方々にご来場いただき、併せて実施したWEB配信も多くの方に視聴いただきました。

大会では、長年、大阪大学医学部附属病院などで移植医としてご活躍された福嶋教偉先生（千里金蘭大学学長）、現役の移植医である上野豪久先生（大阪大学医学部附属病院移植医療部長）によるご講演や、映画作家で大阪・関西万博のシニアアドバイザー兼テーマ事業プロデューサーを務めた河瀬直美様と国際移植者組織トリオ・ジャパンの青山竜馬様とのご講演、心臓移植経験者の小西政志様、ドナー家族の三浦ひらく様とのトークセッションを行い、幅広い世代の皆さまに臓器移植のことを考えていただくことができました。

今大会のテーマは「いのちのバトン、想いをつなぐ ～臓器移植医療をもっとあたりまえに～」でしたが、今回ご参加くださった皆さまから臓器移植医療への理解が繋がり、広がっていくことを願っています。

また、大会の中で執り行われた臓器移植対策推進功労者及び臓器移植に貢献された施設に対する厚生労働大臣感謝状の贈呈式では、個人の部26名、団体の部3団体、施設の部97施設の贈呈者を代表して、個人の部では大阪腎臓病患者協議会の大西真人会長、団体の部では藤田医科大学ばんだね病院の小林雄一事務部長、施設の部では大阪急性期・総合医療センターの嶋津岳士総長にご挨拶いただきました。

加えて、今大会では、例年、大阪府と（公財）大阪腎臓バンクが連携して実施している「院内コーディネーター研修」をプログラムに組み込みました。近畿各府県より計36名が参加された研修では、「臓器提供を決断された家族の思いに触れる」「臓器提供に関する情報提供のあり方について考える」の2つのテーマに沿って、三浦ひらく様（ドナー家族）、渥美生弘先生（浜松医科大学救急災害医学講座教授）にご講演をいただきました。院内コーディネーターの皆さまの今後の取組の一助となることを願っております。

大阪府では、今大会の開催を通じて得た経験も活かしながら、今後も関係機関の皆さまと連携のうえ、取組を進めて参りますので、引き続きのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

大阪府健康医療部保健医療室地域保健課



## 学会等共催事業

令和7年9月以降開催の共催学会は下表の通りとなっています。

学 会 名	開催日時・場所	主宰者（所属）
第103回大阪透析研究会	令和7年9月14日 大阪国際会議場	鈴木 朗 (独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院)
日本性機能学会 第35回学術総会 第35回日本性機能学会中部総会	令和7年9月19～21日 なんばスカイオ コンベンションホール	野々村 祝夫 (大阪大学大学院医学系研究科)
第43回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	令和8年2月6～7日 大阪府立国際会議場	上川 禎則 (大阪市立総合医療センター)
第14回日独泌尿器科会議	令和8年5月24～30日 兵庫・京都・奈良会場	山本 新吾 (兵庫医科大学) (京都会場 代表 小林 恭) (奈良会場 代表 藤田 和利)

※腎・尿路疾患の予防と治療に関する学会等との共催事業を実施し、寄付募金や経費支払の事務を行っています。令和8年度以降に検討又は計画されている学会等を対象に共催申請のご案内をしています。

申請書類・手続等は事務局までお問い合わせください。

## 事務局だより

### 1. 税額控除適用法人の証明（継続更新）

当法人への寄付金（賛助会費を含む）については、税法上、各種の優遇措置があります。そのうち、個人からの寄付金に係る所得税に關し、この度、大阪府知事から税額控除適用法人の証明（継続更新）を受けました。有効期間は令和3年8月16日から令和8年8月15日までです。所得税に関する優遇措置には所得控除方式もありますが、一般的には今回認められた税額控除方式の方が減税効果は高くなります。

他の優遇措置として、個人からの場合は大阪市内に在住の方は大阪市民税、大阪府民の方は個人府民税、相続税があり、寄付者が法人の場合は一般寄付金の損金算入限度額とは別に別枠の損金算入限度額が設けられています。

### 2. 支援型飲料自動販売機の設置について（お願い）

支援型飲料自動販売機設置事業は、自販機の設置者が指定する公益法人に売上金の一部を寄付するもので、飲料購入者の方も飲料の購入を通じて公益事業を支援する制度です。

新しく自販機を設置する場合や交換をお考えの際には是非とも導入いただきますようお願いいたします。ご検討いただける場合は事務局までご一報いただきますようお願いいたします。

### 3. 令和7年度教育研修助成事業の申請案内

大阪府に院内移植コーディネーター設置届出を行っている医療機関を対象に、臓器提供に関する教育研修の参加経費について助成を行っています。

対象となる教育研修等の詳細については、事務局までお問合せ下さい。

### 4. 令和8年の理事会等日程

日 時	会 議 名	備 考
1月28日（水） 18:00	常任委員・ 常任理事会	3月予算理事会の議題整理
3月4日（水） 18:00	理事会	令和8年度事業計画（案）・ 収支予算（案）
5月13日（水） 18:00	理事会	令和7年度事業報告（案）・ 決算（案）
5月29日（金） 18:00	定時評議員会	令和7年度事業報告・ 決算承認

令和7年11月14日

編集・発行

公益財団法人 大阪腎臓バンク

発行人 高原 史郎

事務局 大阪市北区鶴野町4-11-709

TEL (06) 6377-3000

FAX (06) 6377-3022

URL: <http://www.okf.ecnet.jp>